

# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 令和4年9月号 目次

## 【検査結果】

海水浴場水質調査結果（令和4年度） .....	1
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報（令和4年8月） .....	3
-----------------------------	---

## 【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告*（令和4年8月） .....	5
----------------------------	---

\* この記事では主に、医療機関向けの情報を提供しています。

感染症発生動向調査は感染症法に基づく国の事業です。本事業に関する詳細は、「感染症発生動向調査とは」（下記URL）をご参照ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/doko/systemgaiyo.html>

# 海水浴場水質調査結果（令和4年度）

横浜市金沢区の「海の公園」海水浴場において、5月及び7月に環境省からの通知に基づく水質調査を行った結果を紹介します。

なお、環境省による全国の「水浴場（開設前）の水質調査結果」の取りまとめについては、令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により行われず、令和4年度に再開されました。



## 1 対象施設及び試料

(1) 対象施設：「海の公園」海水浴場

(2) 採水日：令和4年5月10日・11日及び7月5日・12日

(3) 試料：「海の公園」沖3地点（沖左側・沖中央・沖右側）で、1日に2回（午前・午後）採水した海水。4日間で計24試料。

なお、採水は金沢福祉保健センターが環境創造局及び公益財団法人横浜市緑の協会の協力を得て行いました。

## 2 検査項目

水質評価項目及び参考検査項目を表1に示しました。

表1 検査項目

検査担当	水質評価項目	参考検査項目
福祉保健センター	油膜の有無、透明度	水温、気温、透視度、臭気等
衛生研究所	ふん便性大腸菌群数	腸管出血性大腸菌O157
	化学的酸素要求量(COD)	一般細菌数、pH

## 3 検査方法

「令和4年度水浴に供される公共用水域の水質調査結果の報告について」（環境省水・大気環境局水環境課長通知 令和4年3月31日付け環水大水発第2203317号）に基づいて行いました。

## 4 検査結果と判定区分

水質評価項目と参考検査項目の水質検査結果は表2のとおりでした。5月10日・11日の12試料の検査結果及び7月5日・12日の12試料の検査結果を用い、環境省通知で定められた方法で報告値を算出しました。その報告値を水浴場水質判定基準(表3)によって「適(水質AA、水質A)」、「可(水質B、水質C)」、「不適」の5段階に区分しました。

令和4年度は、油膜の有無、透明度及びふん便性大腸菌群数の3項目は「適(水質A)」の基準を満たしていましたが、化学的酸素要求量(COD)はいずれの月も「適(水質A)」の基準である「2mg/L以下」を満たさなかったため、判定区分については、5月、7月ともに「可(水質B)」となりました。

なお、令和3年度の5月は「可(水質B)」、7月は「可(水質C)」でした。

今年度は例年に比べ梅雨が早く6月27日に明けたため、翌日から晴天が続きました。そのため、CODは5月の平均値が4.7mg/L、7月の平均値が4.2mg/Lとなり5月と比べて7月が低い結果でした。

平成28年度～令和4年度のCODの各1日分(6試料)の検査結果を2回(午前・午後)に分け、3地点(沖左側・沖中央・沖右側)の値を積み上げ棒グラフとして図に示しました。年度により異なりますが、5月と7月を比較すると例年5月が低く7月が高い年度が多く、1日の中では午前より午後が高く推移する傾向でした。

表2 令和4年度「海の公園」海水浴場の水質検査結果

検査項目	5月		7月	
	10日	11日	5日	12日
油膜の有無	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>
透明度(m)	1.0以上	1.0以上	1.0以上	1.0以上
ふん便性大腸菌群数(個/100mL)	2未満～2未満	2未満～20	2未満～2	2未満～100
COD(mg/L)	3.8～4.5	4.5～6.1	3.8～4.3	3.3～5.0
腸管出血性大腸菌O157(/3,000mL)	不検出	—	不検出	—
一般細菌数(cfu/mL) <sup>*2</sup>	2～3	2～6	1～4	1～7
pH	8.6～8.6	8.6～8.7	8.2～8.3	8.3～8.4

\*1:「認められない」、\*2:参考のため検査しており水質基準はありません

表3 令和4年度「海の公園」海水浴場の環境省への報告値及び水浴場水質判定基準

検査項目	環境省への報告値		水浴場水質判定基準				
	5月 (海水浴場開設前)	7月 (開設中)	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
水質判定区分	可 水質B	可 水質B	適 水質AA	適 水質A	可 水質B	可 水質C	不適
油膜の有無 最小～最大(平均)	無 <sup>*1</sup> (無 <sup>*1</sup> )	無 <sup>*1</sup> (無 <sup>*1</sup> )	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*1</sup>	無 <sup>*2</sup>	無 <sup>*2</sup>	有 <sup>*3</sup>
透明度(m) 最小～最大(平均)	1.0以上～1.0以上 (1.0以上)	1.0以上～1.0以上 (1.0以上)	1.0以上	1.0以上	0.5以上 1.0未満	0.5以上 1.0未満	0.5未満
ふん便性大腸菌群数 (個/100mL) 最小～最大(平均)	2未満～20 (2)	2未満～100 (13)	2未満	100以下	400以下	1,000 以下	1,000超
化学的酸素要求量 COD (mg/L) 最小～最大(平均)	3.8～6.1 (4.7)	3.3～5.0 (4.2)	2以下	2以下	5以下	8以下	8超
腸管出血性大腸菌 O157 (/3,000mL)	不検出	不検出	—	—	—	—	—
pH 最小～最大	8.6～8.7	8.2～8.4	—	—	—	—	—

\*1:「認められない」、\*2:「常時は認められない」、\*3:「常時認められる」

(注) 判定については、水質評価する4項目(油膜の有無、透明度、ふん便性大腸菌群数、化学的酸素要求量)を用います。全ての項目が「適(水質AA)」の基準を満たす水浴場の判定は「適(水質AA)」となります。ただし、一つでも満たさない項目があると、その項目の基準を満たす区分が水浴場の判定となります。いずれかの項目が「不適」である水浴場を「不適」とします。

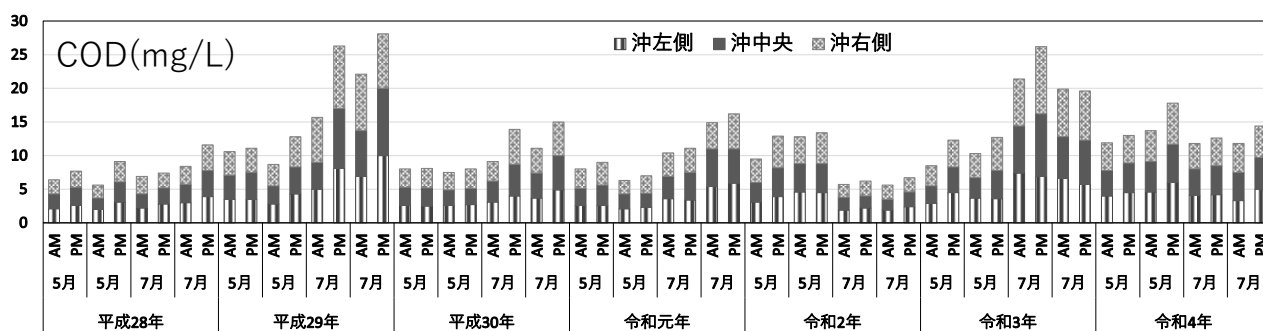


図 化学的酸素要求量(COD)の採水日及び午前(AM)午後(PM)別推移(平成28年度～令和4年度)

# 衛生研究所WEBページ情報（令和4年8月）

横浜市衛生研究所ホームページ（衛生研究所WEBページ）は平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報、薬事情報を提供しています。

今回は、当WEBページにおける令和4年8月のアクセス件数、アクセス順位、追加・更新記事について報告します。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

令和4年8月の総アクセス数は、255,403件でした。前月に比べ14.4%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*82.2%、保健情報11.7%、食品衛生1.5%、薬事1.3%、生活環境衛生1.2%、検査情報月報1.1%でした。

\* 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

8月のアクセス順位（表1）を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

3位に、「手足口病について」が入っています。横浜市内では8月上旬に手足口病の流行が拡大したことを受け、臨時情報を3回発行しました。

表1 令和4年8月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について	15,910
2	EBウイルスと伝染性単核症について	14,514
3	手足口病について	14,275
4	ぎょう虫（蟻虫）症について	13,528
5	トキソプラズマ症について	9,016
6	B群レンサ球菌（GBS）感染症について	7,673
7	熱中症（熱射病、日射病）を予防しましょう	6,772
8	コロナウイルス感染症について	6,648
9	サイトメガロウイルス感染症について	6,555
10	クロストリジウム・ディフィシル感染症について	6,312

（政策局広報課提供のデータを基に集計）

「水痘（水疱瘡）・帯状疱疹について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/sa/chicken1.html>

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

「手足口病について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ta/handfoot2.html>

## 2 追加・更新記事

令和4年8月に追加・更新した主な記事は、15件でした(表2)。

表2 令和4年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 1日	熱中症情報(2022年8月1日)	掲載
8月 2日	感染症に気をつけよう(8月号)	掲載
8月 5日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第6回)	更新
	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
8月 8日	熱中症情報(2022年8月8日)	掲載
8月12日	手足口病流行情報(2022年8月12日)	掲載
8月16日	熱中症情報(2022年8月16日)	掲載
8月17日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
8月18日	手足口病流行情報(2022年8月18日)	掲載
8月23日	熱中症情報(2022年8月22日)	掲載
8月25日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第7回)	更新
	手足口病流行情報(2022年8月25日)	掲載
8月26日	横浜市衛生研究所における新型コロナウイルスの全ゲノム解析結果	更新
8月29日	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
	熱中症情報(2022年8月29日)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】

# 横浜市感染症発生動向調査報告（令和4年8月）

## 《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症は第31週の報告数39,708件をピークに減少傾向にあります。小児を含めた幅広い年齢層での感染がみられます。
- 手足口病は流行警報レベルに達し、市内で流行が続いています。
- ヒトメタニューモウイルス、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス等が検出されています。
- 梅毒などの性感染症は、高い水準で続いています。

### ◇ 全数把握の対象

＜8月期に報告された全数把握疾患＞

腸管出血性大腸菌感染症	11件	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件
E型肝炎	2件	クロイツフェルト・ヤコブ病	2件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	4件	梅毒	10件

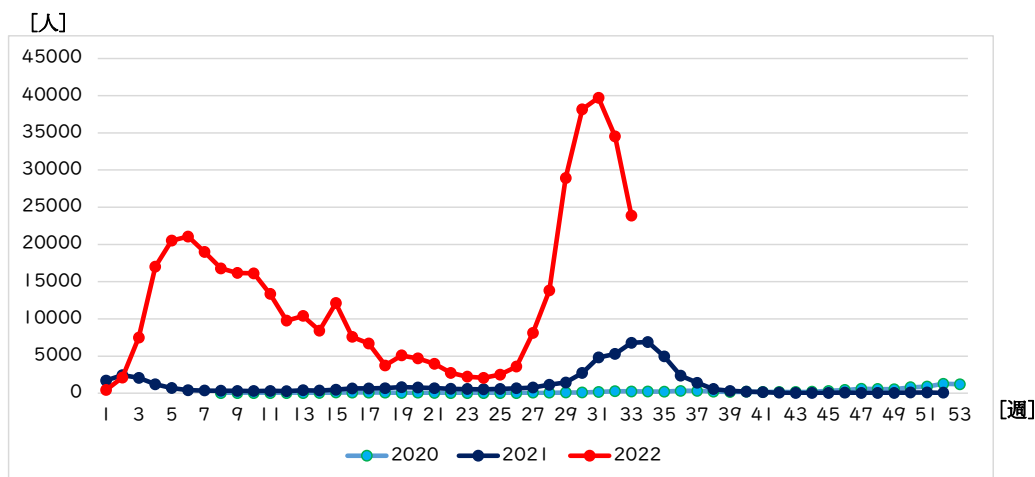
- 1 **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～60歳代で、O157が9件、O103及びO145の報告が1件ずつありました。6件は国内での経口感染、1件は接触感染と推定され、4件は感染経路等不明です。
- 2 **E型肝炎**:50歳代～80歳代で、1件は国内での経口感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 3 **A型肝炎**:20歳代(ワクチン接種歴不明)で、国内での経口感染と推定されています。
- 4 **レジオネラ症**:20歳代～90歳代で、1件は国内での水系感染と推定され、2件は感染経路等不明です。
- 5 **アメーバ赤痢**:50歳代～60歳代で、1件は性的接触(異性間)と推定され、3件は感染経路等不明です。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:80歳代で、いずれも感染経路等不明です。
- 7 **クロイツフェルト・ヤコブ病**:70歳代で、孤発例の報告が2件ありました。
- 8 **侵襲性肺炎球菌感染症**:10歳未満(ワクチン4回接種)、80歳代(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。1件は飛沫・飛沫核感染と推定され、1件は感染経路等不明です。
- 9 **水痘(入院例に限る)**:50歳代(ワクチン接種歴不明)で、飛沫・飛沫核感染と推定されています。
- 10 **梅毒**:30歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件、晩期顕症梅毒1件の報告がありました。性的接触による感染が8件(異性間6件、詳細不明2件)、感染経路等不明が2件です。

### ◇ 新型コロナウイルス感染症(報道発表ベース)

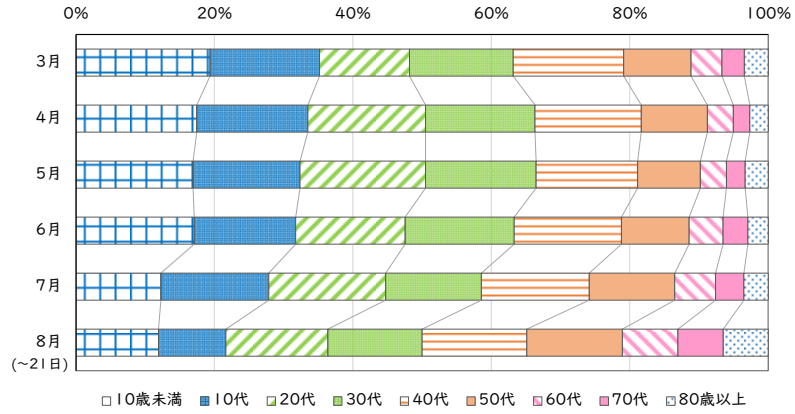
第30週～第33週に横浜市から報道発表がありました症例は136,255件でした。

◆横浜市 新型コロナウイルス感染症関連データ <https://data.city.yokohama.lg.jp/covid19/>

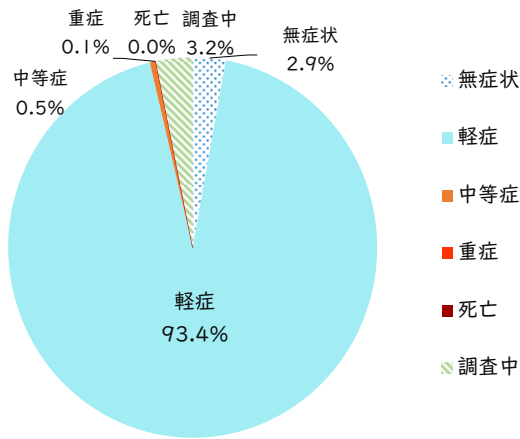
### 1 報告数の推移



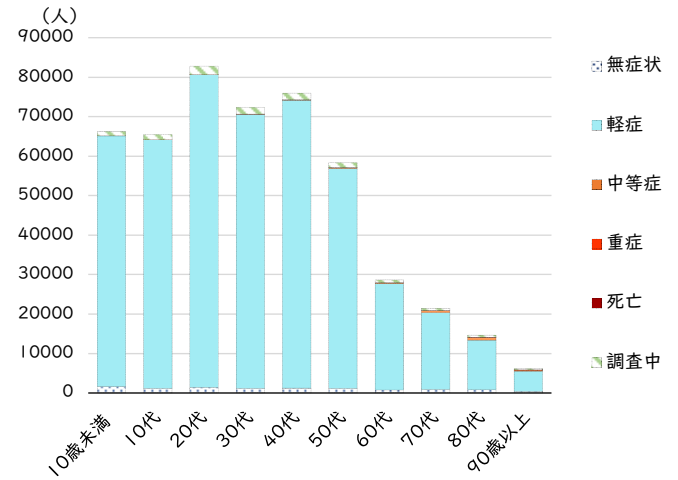
## 2 年齢層別患者割合



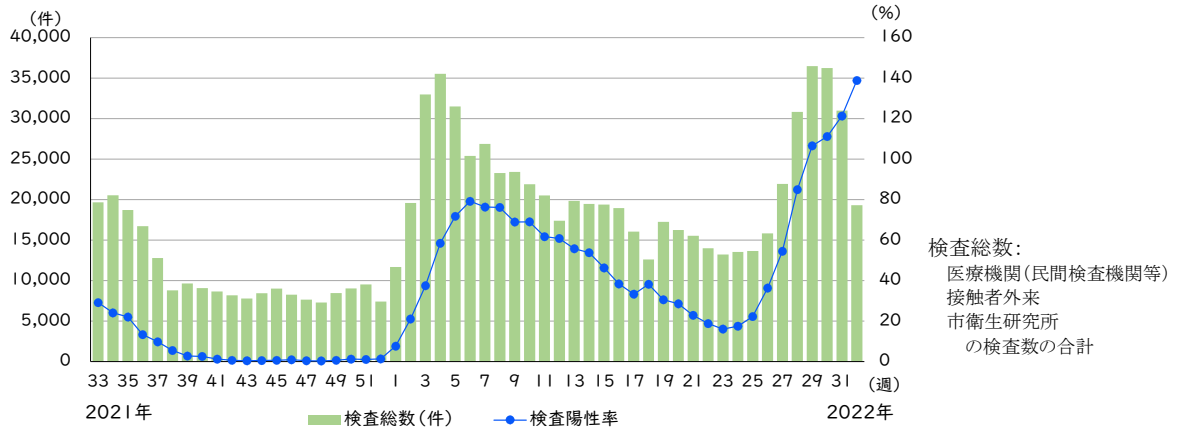
## 3 陽性確定時の症状の割合(2022年第33週まで)



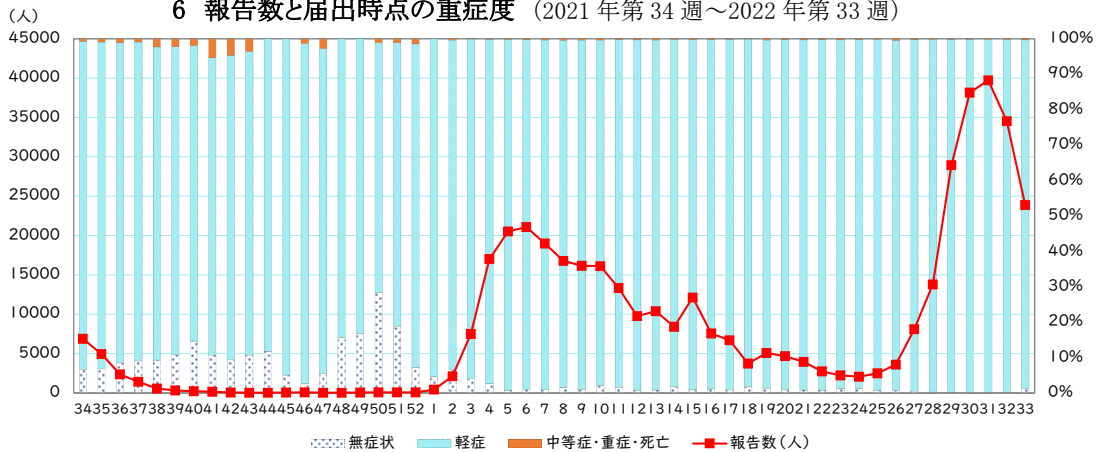
## 4 陽性確定時の症状別人数(年代別) (2022年第33週まで)



## 5 市内における新型コロナウイルス検査実施状況 (2021年第33週～2022年第32週)



## 6 報告数と届出時点の重症度 (2021年第34週～2022年第33週)

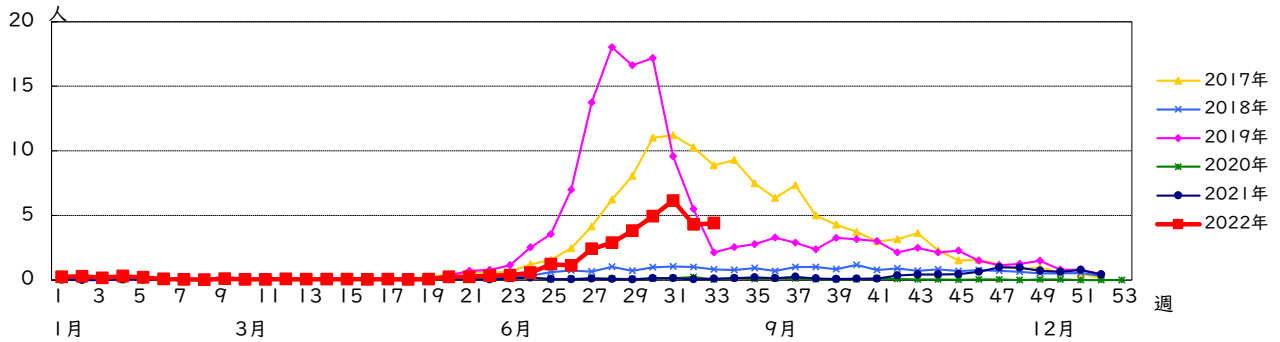




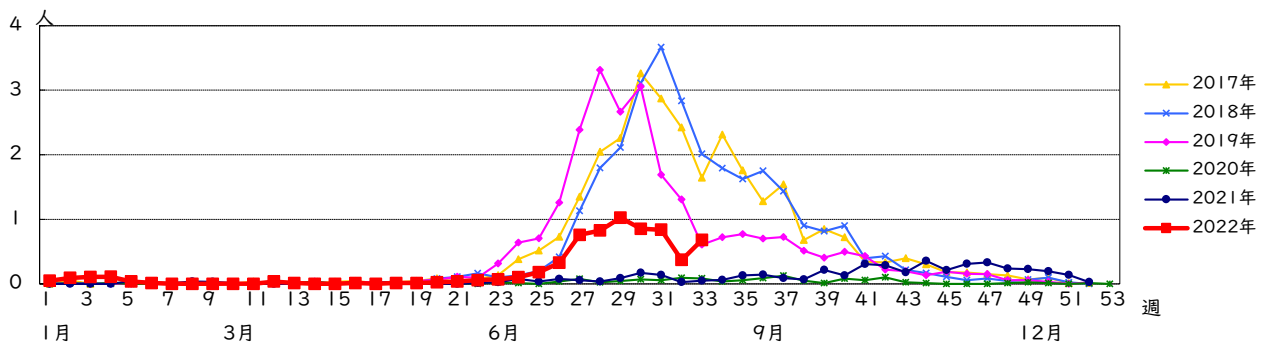
報告週対応表	
第30週	7月25日～7月31日
第31週	8月1日～8月7日
第32週	8月8日～8月14日
第33週	8月15日～8月21日

◇ 定点把握の対象

1 手足口病：第20週以降増加が続き、第31週は6.15で、流行警報発令基準値5.00を上回りました。第32週は4.29、第33週は4.40ですが、市内での流行は続いています。



2 ヘルパンギーナ：第20週以降増加が続き、第30週は0.85、第31週は0.84、第32週は0.37、第33週は0.68となっています。



3 性感染症(7月)

性器クラミジア感染症	男性:38件	女性:17件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:4件	女性:5件
尖圭コンジローマ	男性:8件	女性:2件	淋菌感染症	男性:20件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第30週	第31週	第32週	第33週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.67	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(7月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

8月期(2022年第30週～第33週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点21件、眼科定点1件、基幹定点3件、定点外医療機関からは3件でした。

RSウイルスサブグループA遺伝子2件、コクサッキーウイルスA6型遺伝子3件、ライノウイルス遺伝子1件、ヒトパラインフルエンザウイルス1型遺伝子3件が検出されました。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2022年第30週～第33週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	肺 炎	手 足 口 病	ヘル パン ギー ナ	手 足 口 病 ・ 気 管 支 炎
RSウイルスサブグループA		- 2				
コクサッキーウイルスA6型	- 1			- 1	- 1	
ライノウイルス				- 1		
ヒトパラインフルエンザウイルス1型		- 1	- 1			- 1
合計	- 1	- 3	- 1	- 2	- 1	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

8月期(2022年第30週～第33週)の「菌株同定」の検査依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、サルモネラ属菌2件でした。非定点からの依頼は、非結核性抗酸菌(NTM)2件でした。保健所からの依頼は、腸管出血性大腸菌15件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌2件、バンコマイシン耐性腸球菌1件でした。

「分離同定」の検査依頼は、基幹定点からレジオネラ属菌遺伝子検査1件、非定点から細菌遺伝子検査2件、保健所からレジオネラ属菌1件でした。

「小児サーベイランス」の検査依頼は、小児科定点から咽頭炎が3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2022年第30週～第33週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
医療機関	基幹定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4 <i>Klebsiella aerogenes</i> (2)、 <i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)		
		サルモネラ属菌	2 <i>Salmonella</i> Stanley (1)、 <i>Salmonella</i> Typhimurium (1)		
	非定点	非結核性抗酸菌(NTM)	2 <i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscesses</i> (2)		
保健所		腸管出血性大腸菌	15 O157 : H7 VT1 VT2 (5)、O157 : H7 VT2 (3)、 O157 : H7 VT1 (1)、O157 : H- VT2 (1)、 O103 : H2 VT1 (2)、O145 : H- VT2 (1)、 OgUT : Hg2 VT2 (1)、Og76 : Hg19 VT1 VT2 (1)		
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Serratia marcescens</i> (1)		
		侵襲性肺炎球菌	2 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15C (1)、 <i>Streptococcus pneumoniae</i> 15A (1)		
		バンコマイシン耐性腸球菌	1 <i>Enterococcus faecium</i> vanA (1)		
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等	
医療機関	基幹定点	喀痰	レジオネラ属菌遺伝子	1	LAMP法 陰性 (1)
	非定点	動脈壁、膿性部	細菌遺伝子	2	2種類以上の細菌遺伝子が検出 (2)
保健所	喀痰	レジオネラ属菌	1	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (1)	
小児サーベイランス	材料	臨床症状	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	咽頭ぬぐい液	咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 TUT (1)、 A群溶血性レンサ球菌 TB3264 (1)、 溶血性レンサ球菌 不検出 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】